

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		unico坂ノ市				公表日	2025年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準人員+αを置くことで、より充実した支援を行えるようにしてある	体調不良で急な休みになるスタッフが少なくないため、体調管理には気を配る。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		何がどこにあるのかは明確にしている	細かい整理が足りない場合があるため、清潔かどうかも含めて整理を徹底する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			細かい整理が足りない場合があるため、清潔かどうかも含めて整理を徹底する。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		相談室やスタッフルームで対応が可能	急な体調不良に対応できる設備があるとよい	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		目的や課題についてMTGの場以外でも共有することができる	MTGでは問題ないが、その場その場での共有が全体に伝わっていないことがある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			今回が初の評価表作成のため、具体的な方法を検討する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		MTGの場以外でも共有することができる		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		unico本部の物が定期的に開催される	第三者の評価が、市役所しかない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		FAXやメールで不定期で研修案内が来る unico本部の物が定期的に行われる	気兼ねなく参加できる環境を作っていく	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		全スタッフが作成に携わることができ、作成後は保護者説明も行われている		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		日常的に気になった事も共有できる状態にし、見落としがないようにしている		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		全スタッフが作成に携わることができ、作成後は保護者説明も行われている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々の振り返りで計画に沿っているかを確認している		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の振り返りで計画に沿っているかを確認している	フォーマルなツールが不足気味	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		具体的な行動として支援が立てられている。 会議で共通認識が持てるようにしている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		計画立案時のみならず、日々の朝MTGでも相談している		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		計画立案時のみならず、日々の朝MTGでも相談している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		計画立案時のみならず、日々の朝MTGでも相談している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝MTGでタスクを確認しあっている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		記録の作成をしながら細かい振り返りを行う	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		翌日の振り返り時に検証や改善点を話し合う	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		事前カンファレンスも行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○				
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や教室長が、日々の気付きを共有したうえで参画している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		検査結果や状態について整理された書類をいただいている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			該当者なし
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			機会はあるため、積極的に参加できる雰囲気づくりを行う必要がある
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			まずはunicoの他教室との合同から始めていく
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			機会はあるため、積極的に参加できる雰囲気づくりを行う必要がある
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時にお伝えしている。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			本格的なペアレントトレーニングは難しいが、それ以外の保護者支援ができるように学ぶ機会を設ける。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて、送迎時あるいはモニタリング時に行う。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		他事業所の活動を参考とし、交流する機会を設ける。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約や担当者会議の時に確認する	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			該当者なし
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事故・ヒヤリハット発生時にすぐに行う。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		規定通りに行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に大まかな説明を行い、実際に行った際には詳細に報告している。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	unico坂ノ市		
○保護者評価実施期間	2025年2月11日		2025年2月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年2月11日		2025年2月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援の状況や支援計画、その他アセスメントなどの情報共有や会議が定期的に行われ、全スタッフが積極的に情報提供や相談をしあえる状況である。	会議という場だけではなく日頃の支援の中でも児童の様子や気になる点を共有しあうことで、会議の場になっても発言しやすい状態になっている。	現時点の関係性を維持しつつも、より具体的な見立てや対応についても話し合えるように研磨していく。
2	保護者に対する運営や情報共有が丁寧に行われている。	電話や送迎時だけではなく、LINEを通じて児童の様子を共有している。 送迎時には一日の様子だけではなく支援の状況や児童の変化を逐一報告するように心がけている。	保護者同士が関わられる機会、あるいは一緒に活動ができる機会を設けることで、児童の変化を感じられる機会を作る。
3	パートナーシップ先である株式会社unicoによる研修が定期的に行われており、支援体制について学ぶことができる。	unico本部による研修を受けたあと、スタッフ間で振り返りをして整理している。	整理した後に、どうすれば活かせるかを検討する時間を設ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域児童発達センター等を含め、第三者からの研修やスーパーバイスを受ける経験が少ない。	unico本部の研修や指導が入るため、第三者の研修の代わりになると感じているスタッフが多い。	定期的に研修の案内は送付されてくるため、スタッフ全体として意識を高める必要がある。 スタッフが少ない場合の支援の立ち回り方を検討し、研修を受けやすい雰囲気を作る。
2	各家庭の保護者に対する支援(ペアレントトレーニング)や、家族交流会のようなコミュニティについて、体制という意味でも支援という意味でも未成熟である。	unico本部としての運営、あるいは支援体制そのものとして、直接保護者に支援をする体制になっていないため、unico坂ノ市も同様の結果になっている。	unico内の他教室や他事業所で行っている工夫を参考にし、unico全体の運営体制の中で行える保護者支援、あるいは交流の場を設けるには何が必要かを検討する。
3	地域の児童や他事業所など、unico坂ノ市以外の児童やコミュニティと交流する機会が少ない。	unico坂ノ市が開所して1年たっていないこともあり、スタッフ全体として慎重になりすぎている。	同県にある他教室との交流を軸にしながらも、担当者会議等で積極的に併用先の事業所との合同レクリエーション等を提案する。